

イエス、泣く

シリーズ～新イエス～

2025/8/24

ラザロの死を待って出かけるイエス

- **ラザロが病気だと知らされる**

- マルタとマリアの姉弟、ラザロ
- 「あなたの愛しておられる者が病気なのです」(3)

- **直ぐに出発しないイエス**

- 「この病気は死で終わるものではない。神の栄光のためである。神の子がそれによって栄光を受けるのである。」(4)

- **ラザロを「起こしに行く」と宣言して出発**

- 「ラザロは死んだのだ。」(14)
- 「しかし、わたしは彼を起こしに行く。」(11)

イエスとマルタのやりとり

マルタはイエスに言った。「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに。しかし、あなたが神にお願いになることは何でも神はかなえてくださると、わたしは今でも承知しています。」イエスが、「**あなたの兄弟は復活する**」と言われると、マルタは、「**終わりの日の復活の時に復活することは存じております**」と言った。イエスは言われた。「**わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。**」マルタは言った。「はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」(20～27節)

マルタの対応

- マルタが出迎え、非難？する

- 「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに。」(21)

- イエスはラザロの復活を宣言

- 「あなたの兄弟は復活する」

- マルタは「終わりの日」の復活は信じている

- 「終わりの日の復活の時に復活することは存じております」

- イエスは命の与え主であることを信じるか？

- 「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。…このことを信じるか。」

イエスとマリアのやりとり

マリアはイエスのおられる所に来て、イエスを見るなり足もとにひれ伏し、「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに」と言った。イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮して、言われた。「どこに葬ったのか。」彼らは、「主よ、来て、御覧ください」と言った。イエスは涙を流された。ユダヤ人たちは、「御覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか」と言った。しかし、中には、「盲人の目を開けたこの人も、ラザロが死なないようににはできなかったのか」と言う者もいた。イエスは、再び心に憤りを覚えて、墓に来られた。(32～38節)

感情が揺さぶられるイエス

- マリアがイエスのところへ来て同じことを言う
 - 「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに」
- イエス、激しく動揺する
 - 「彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮して…」
 - 原語“霊が激しく揺さぶられ、かき乱され”
- イエス、涙を流す
 - 「主よ、来て、御覧ください」と言われて
 - 原語(ダクルオー): “静かに涙を流す”
 - 他の人々の「泣く」(クライオー)とは違う言葉

霊はなぜ激しく揺さぶられたのか

- ともともラザロの死を待って、彼をよみがえらせるために来た
 - 決して簡単な決断ではなかった！
- 神の栄光のため、そして自らが神であることを証明するための奇跡である
 - 「神の栄光のためである。神の子がそれによって栄光を受けるのである」
- しかし、誰一人イエスに期待せず泣きわめいている
 - マルタもマリアも人々も、「生きているうちに来てくれていたら」と嘆いている

霊はなぜ激しく揺さぶられたのか

- ともそもラザロの死を待つて、彼をよみがえらせるため

- 決して

- 神の栄光を証明すること

- 「神の栄光を」によって

イエスは死から始まる神の業を行おうとしているが、人々は、死はすべての終わりて、イエスの力も届かないとあきらめている

- しかし、誰一人イエスを待せず泣きわめいている

不信仰に対する嘆き

- マルタもマリアも人々も、「生きているうちに来てくれている」と嘆いている

では、なぜイエスは涙を流したのか

- 「心に憤りを覚え、興奮して、言われた。『どこに葬ったのか。』」
 - 早くラザロをよみがえらせようとしている
- 「彼らは、『主よ、来て、御覧ください』と言った。イエスは涙を流された。」
 - この瞬間に、不信仰に対する憤りが、死に対して無力である人間への同情に変わった
 - 「この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく…」ヘブライ4:15
 - わたしたちと共に悲しまれる方である

ラザロの墓前で

墓は洞穴で、石でふさがれていた。イエスが、「その石を取りのけなさい」と言われると、死んだラザロの姉妹マルタが、「主よ、四日もたっていますから、もうにおいます」と言った。イエスは、「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか」と言われた。人々が石を取りのけると、イエスは天を仰いで言われた。「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します。わたしの願いをいつも聞いてくださることを、わたしは知っています。しかし、わたしがこう言うのは、周りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになったことを、彼らに信じさせるためです。」

ラザロの墓前で

• マルタが忠告するが

- 「主よ、四日もたっていますから、もうにおいます」
- 「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか」

• 墓前での祈り

- 「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します。…あなたがわたしをお遣わしになったことを、彼らに信じさせるためです。」
- これから行うことはイエスの力を誇示するためではなく、あくまで神の業であり、イエスはその実行者である

ラザロをよみがえらせる

こう言ってから、「ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。イエスは人々に、「ほどいてやって、行かせなさい」と言われた。

イエスは神から遣わされた方であること。また、「復活であり、命である」こと、すなわち命の与え主であることが証明された！

「信じる」こそがキーワード

- 「わたしがその場に居合わせなかったのは、あなたがたにとってよかった。あなたがたが信じるようになるためである。」(15)
- 「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。」(25)
- 「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか」(40)
- 「しかし、わたしがこう言うのは、周りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになったことを、彼らに信じさせるためです。」(42)

いかなる状況であっても神に信
頼し、期待することを、神は強く
願っておられる

しかし、神は私たちの弱さに同情
できない方ではない

そのことを伝えるために、イエス
は地上を歩まれた